

株主の皆さまへ

第88期中間報告書

(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)

株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。当社の事業活動につきまして、平素よりご高配を賜わり、心よりお礼申し上げます。ここに、株主の皆さまへ（第88期中間報告書）をお届けするにあたりまして、ひと言ごあいさつ申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における経済状況は、急速な円高や海外経済の減速懸念があるものの、中国をはじめとした新興国で力強い回復が見られ、全体として景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。機械業界におきましても、新興国を中心とした外需が好調に推移いたしました。

このような経済環境のもとで、当社グループは平成22年4月1日からスタートさせた新中期経営計画「TM AC Plan」(Toshiba Machine Adapt to the Change Plan)の遂行に注力するとともに、国内外での受注確保、新商品の開発、市場の開拓、財務体質の改善等に全力で取り組みました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結受注高はアジア、米国を中心とした地域で設備投資の需要に回復の動きが見られたこともあり、前年同四半期比74.7%増の464億7千9百万円と大幅に改善いたしました。

しかしながら、設備投資の需要回復は小型機・汎用機が中心で、当社グループが得意とする大型機・特殊機の回復は遅れており、当第2四半期連結累計期間における売上高につきましては、前年同四半期比15.8%増の430億9千3百万円にとどまりました。

また、連結損益につきましては、固定費・変動費削減などの緊急施策の実施や経営全般にわたる合理化努力をいたしました結果、当第2四半期営業利益は15億8千7百万円、当第2四半期経常利益は11億8千3百万円、当第2四半期純利益は6億6千万円となりました。



取締役社長 飯村 幸生

今後の見通しにつきましては、設備投資の需要は回復基調にあるものの、急激な円高や世界経済の減速懸念、競合企業との競争激化など引き続き予断を許さない状況が続くものと予想されます。このような状況を乗り切るために、さらなる合理化とコスト削減および海外展開の強化によって収益改善に努めてまいります。

また、研究開発の加速、合理化・効率化施策による生産性の向上、ISO9001・14001をベースとした品質・環境管理の徹底等スピードをあげて推進するとともに、会社の将来を担う人材の育成ならびに法令遵守、社会貢献など企業の社会的責任活動等を徹底してやり遂げることで、企業価値の最大化を図り、株主、顧客、取引先、従業員、地域社会等のステークホルダーに報いることができる企業を目指してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、何卒いっそうのご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成22年12月

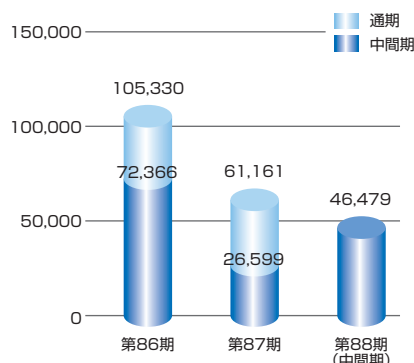
決算ハイライト

連結業績の推移

区 分	平成20年度		平成21年度		平成22年度
	中間期	通 期	中間期	通 期	中間期
受 注 高(百万円)	72,366	105,330	26,599	61,161	46,479
売 上 高(百万円)	72,103	121,890	37,209	74,694	43,093
経 常 利 益(百万円)	8,150	9,891	△ 1,022	△ 2,112	1,183
中間(当期)純利益(百万円)	4,804	5,302	△ 3,027	△ 4,531	660
1株当たり中間(当期)純利益(円)	30.60	34.18	△ 19.91	△ 29.80	4.34
総 資 産(百万円)	150,997	132,733	116,076	115,806	122,470
純 資 産(百万円)	72,654	68,712	65,485	63,372	63,140

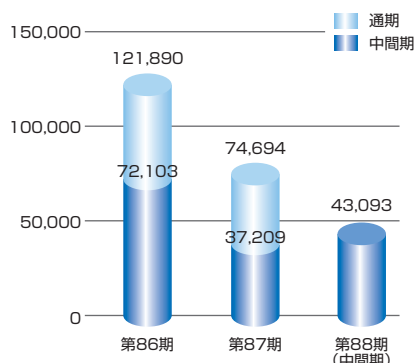
■ 受注高

(単位: 百万円)



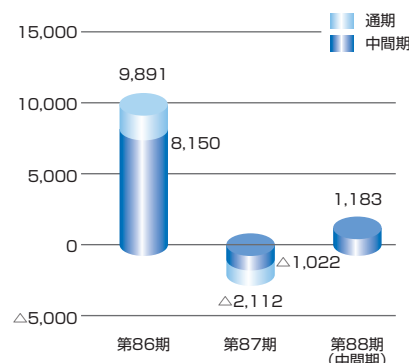
■ 売上高

(単位: 百万円)



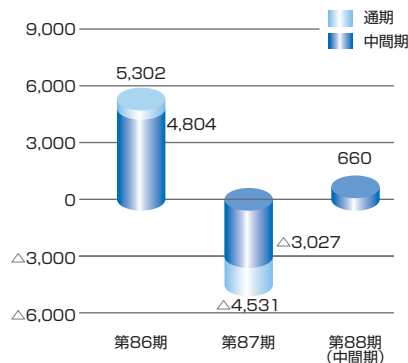
■ 経常利益

(単位: 百万円)



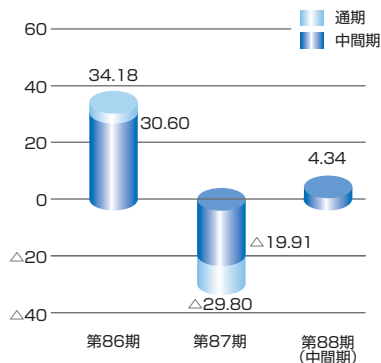
■ 中間(当期)純利益

(単位: 百万円)



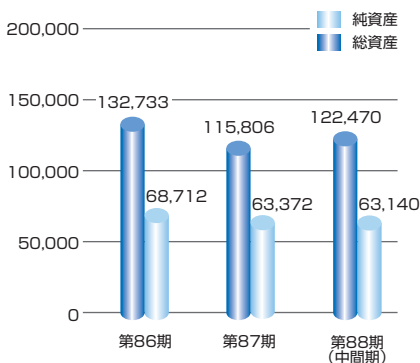
■ 1株当たり中間(当期)純利益

(単位: 円)



■ 総資産/純資産

(単位: 百万円)



部門別の状況

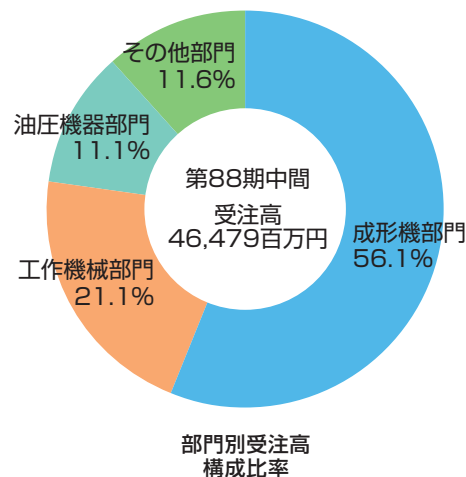
当社の製品・当第2四半期の概況について、セグメント別にご紹介いたします。

連結受注高

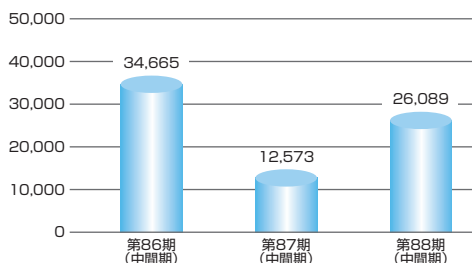
当第2四半期の連結受注高は、自動車関連、IT・デジタル関連、建設機械業界を始めとする多くの顧客業界の需要に回復の動きが見られたため、射出成形機、ダイカストマシン、押出成形機などの成形機、油圧機器などで増加し、前年同期比74.7%増の464億7千9百万円となりました。

なお、当第2四半期末連結受注残高は、513億1千7百万円（前年同期末518億5千4百万円）となりました。

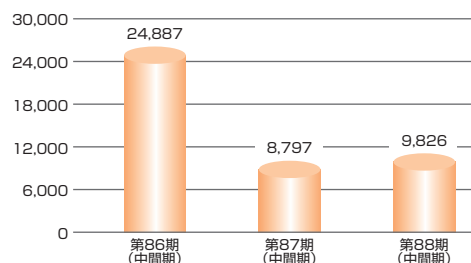
部門別（セグメント別）受注高の内訳は、次のとおりであります。



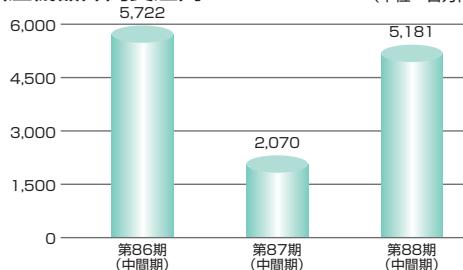
■成形機部門受注高 (単位：百万円)



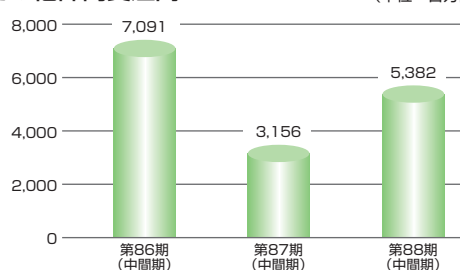
■工作機械部門受注高 (単位：百万円)



■油圧機器部門受注高 (単位：百万円)



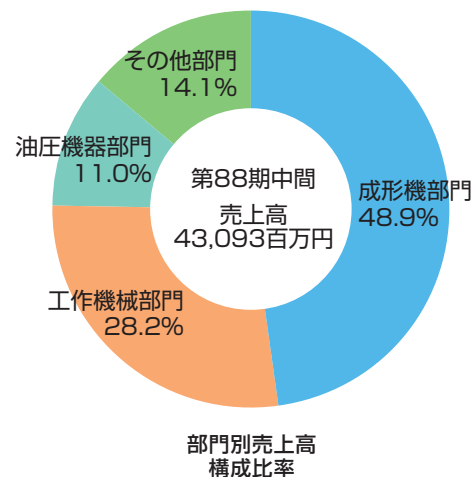
■その他部門受注高 (単位：百万円)



連結売上高

連結売上高につきましても、受注と同様に成形機、油圧機器などが売上を伸ばし、前年同期比15.8%増の430億9千3百万円となりました。

部門別（セグメント別）売上高の内訳は、次のとおりであります。

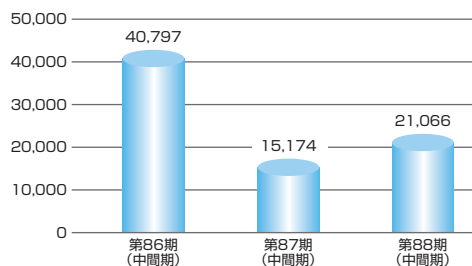


設備投資（連結）および資金調達

本社工場（沼津）、相模工場および御殿場工場などの当社グループの各工場の生産体制合理化のための機械設備などに、10億5千8百万円を投資いたしました。これに要した資金は、自己資金をもって充当いたしました。

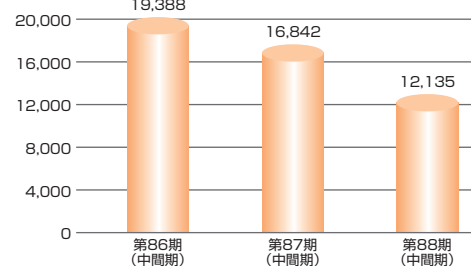
■成形機部門売上高

(単位：百万円)



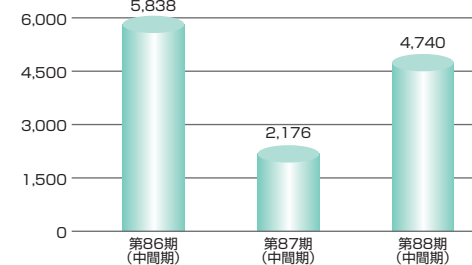
■工作機械部門売上高

(単位：百万円)



■油圧機器部門売上高

(単位：百万円)



■その他部門売上高

(単位：百万円)



貸借対照表（連結）

（単位：百万円）

科 目	第88期中間期 (平成22年9月30日現在)	第87期 (平成22年3月31日現在)	科 目	第88期中間期 (平成22年9月30日現在)	第87期 (平成22年3月31日現在)
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	92,181	83,260	流 動 負 債	43,115	35,626
現金及び預金	19,559	15,992	支払手形及び買掛金	23,364	17,312
受取手形及び売掛金	33,135	28,633	短期借入金	11,326	10,514
有価証券	13,500	16,000	未払法人税等	543	221
商品及び製品	3,798	3,093	未払費用	3,921	3,611
仕掛品	19,535	16,492	製品保証引当金	64	73
原材料及び貯蔵品	73	101	その他の流動負債	3,894	3,892
繰延税金資産	1,696	1,492	固 定 負 債	16,215	16,807
その他の流動資産	1,180	1,690	長期借入金	7,150	7,500
貸倒引当金	△ 298	△ 237	長期未払金	43	46
固 定 資 産	30,289	32,546	繰延税金負債	79	123
有 形 固 定 資 産	22,611	23,452	退職給付引当金	8,794	8,997
建物及び構築物	11,902	12,257	役員退職慰労引当金	45	86
機械装置及び運搬具	4,116	3,786	資産除去債務	49	—
土地	5,988	5,989	その他の固定負債	52	53
リース資産	74	72	負 債 合 計	59,330	52,434
建設仮勘定	94	853	純 資 産 の 部		
その他の有形固定資産	436	493	株 主 資 本	63,406	62,974
無 形 固 定 資 産	437	480	資本金	12,484	12,484
投 資 そ の 他 の 資 産	7,241	8,612	資本剰余金	19,600	19,600
投資有価証券	5,622	6,907	利益剰余金	41,359	40,926
長期貸付金	123	132	自己株式	△ 10,038	△ 10,038
繰延税金資産	623	652	評 価 ・ 換 算 差 額 等	△ 266	397
その他	1,200	1,238	その他有価証券評価差額金	1,083	1,516
貸倒引当金	△ 329	△ 318	繰延ヘッジ損益	5	3
			為替換算調整勘定	△ 1,355	△ 1,122
資 産 合 計	122,470	115,806	純 資 産 合 計	63,140	63,372
			負 債 ・ 純 資 産 合 計	122,470	115,806

損益計算書（連結）

（単位：百万円）

科 目	第88期中間期	第87期中間期
	（平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで）	（平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで）
売 上 高	43,093	37,209
売 上 原 価	31,188	27,180
売 上 総 利 益	11,905	10,029
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	10,317	10,310
営 業 利 益	1,587	△ 281
営 業 外 収 益	366	435
営 業 外 費 用	770	1,176
経 常 利 益	1,183	△ 1,022
特 別 利 益	—	11
特 別 損 失	36	29
税金等調整前四半期純利益	1,146	△ 1,040
法人税、住民税及び事業税	410	219
法人税等調整額	76	1,766
少数株主損益調整前四半期純利益	660	—
四 半 期 純 利 益	660	△ 3,027

キャッシュ・フロー計算書（連結）

（単位：百万円）

科 目	第88期中間期	第87期中間期
	（平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで）	（平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	645	4,161
投資活動によるキャッシュ・フロー	381	△ 1,755
財務活動によるキャッシュ・フロー	225	△ 1,177
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 185	340
現金及び現金同等物の増減額	1,067	1,569
現金及び現金同等物の期首残高	31,992	26,694
現金及び現金同等物の四半期末残高	33,059	28,263

■2010東芝機械グループソリューションフェア開催

2010年5月20日～22日の3日間、当社グループの総力を挙げた「2010東芝機械グループソリューションフェア」が沼津本社工場および御殿場工場で開催されました。

第8回目となる今回は、期間中好天に恵まれ、前回は上回る4,198名と過去最高のお客さまにご来場いただきました。

世界的に産業構造のパラダイムシフトが進む中で、「先進と拡張」新たな商品価値の創造をコンセプトとし、「【先進】徹底的に「技術」をお見せする内覧会」としては、各展示会場で「実加工」「実演」にこだわり、また「【拡張】「インターナショナル」な内覧会」としては、海外から多数のお客さまにご来場いただき、セミナー会場では同時通訳も行なうなど、お客さまに当社グループの「ベストソリューション」をご提案することができました。

恒例の特別セミナーは、初日に「人工衛星『まいど1号』熱い想い、そして実現へ～中小企業だからできる～」、2日目は「中国市場との比較から見えてくるインド市場の魅力について」、3日目は「『スマート・コミュニティ』におけるわが国の取組の現状と今後の戦略」をテーマに開催いたしました。



2010東芝機械グループソリューションフェア

■工作機械事業部 MP-2620 (U) が第40回機械工業デザイン賞受賞

日刊工業新聞社主催の第40回機械工業デザイン賞において、当社の工作機械事業部（受賞当時は東芝機械マシナリー（株））の門形複合加工機MP-2620（U）が、審査委員会特別賞を受賞いたしました。

同賞はデザインを基盤として生産財の輸出市場開拓と販売促進を図ることを目的に創設されたもので、これまで工業技術・生産技術のデザイン賞として時代を象徴する画期的な製品を数多く顕彰してきました。

今回の表彰は、将来性が期待される製品に対するものであり、本機は、ベース部と機構部を塗り分けたモノトーンのカラーリングにより、圧迫感を感じさせない点が評価されました。

生産財の特質上、消費財とくらべデザインは地味になりがちですが、これからも産業基盤を支える熱意と技術開発力を感じられる製品開発にまい進してまいります。



機械工業デザイン賞受賞



■環境保全への取り組み ー持続可能な社会を構築するためにー

当社グループでは環境保全の取り組みとして、「資源の有効活用」、「環境調和型商品の提供」、「化学物質の管理徹底」を継続するとともに、「生産効率向上による環境負荷の低減」および「生物多様性などを含めた、自然とのかかわり、地域社会との共生」に、より一層力を入れてまいります。

6月の環境月間にあわせて、当社グループでは下記の行事を展開し、環境意識の高揚を図りました。

1. 美化ボランティア活動

当社グループの従業員とその家族および当社体育館を利用する近隣の中学生も加わり、354名（本社工場150名、相模工場31名、御殿場工場9名、当社グループの東栄電機（株）104名、（株）不二精機製造所60名）が参加して、各工場周辺地域への社会貢献活動として、美化活動を行ないました。

2. 環境講演会

今年の環境講演会は、静岡県庁のくらし・環境部増田理事をお招きし、生物多様性について講演していただきました。

飯村社長をはじめ全役員、事業部門・スタッフ部門役職者、環境保全担当者等合計85名が参加し、自然界とさまざまにかかわる中で、人間の活動が気がつかないうちに、生態系に多くのダメージを与えていることを説明していただき、生物多様性への配慮の重要性を再認識することができました。

3. 沼津市千本浜 海岸清掃

2010年6月20日に、沼津市主催で当社も協賛する「フェスタ・コスタ・デル・ゴミ・IN千本浜」が約1,500名の参加の下、盛大に開催されました。沼津市長のあいさつの後、約2時間にわたり千本浜海岸の清掃作業を行ないました。



美化ボランティア



環境講演会



沼津市海岸清掃

会社の概況

(1) 商号

東芝機械株式会社

(2) 所在地

東京都千代田区内幸町二丁目2番2号

(3) 創業

1938年（昭和13年）12月

(4) 設立

1949年（昭和24年）3月

(5) 資本金

124億8千4百万円

(6) 従業員数

連結：3,126名（前期末比59名増）

単独：1,520名（前期末比14名減）

(7) 主要な事業内容

当社グループは、各種機械・器具・装置の製造・販売を主な事業としており、主要製品は、次のとおりであります。

部門	主要製品
成形機	射出成形機 ダイカストマシン 押出成形機
工作機械	大型機 門形機 横中ぐり盤 立旋盤 精密加工機
油圧機器	油圧機器
その他	電子制御装置

(8) 取締役および監査役（平成22年12月1日現在）

代表取締役社長	飯村幸生
代表取締役副社長	跡部與志
専務取締役	矢野文久
常務取締役	井出彰訓
常務取締役	花井宏志
取締役	岸本吉弘
取締役	鈴木孝尚
取締役	広中哲
取締役	八木正幸
取締役	坂元繁友
常勤監査役	松本倫雄
常勤監査役	鈴木正博
常勤監査役	牧野輝幸
監査役	渡辺通春

- (注) 1. 平成22年6月25日開催の第87回定時株主総会および取締役会において、新たに花井宏志氏が常務取締役に就任いたしました。
2. 平成22年6月25日開催の第87回定時株主総会終結の時をもって、取締役芳村享映氏は任期満了により、退任いたしました。
3. 常勤監査役牧野輝幸、監査役渡辺通春の両氏は、社外監査役であります。

(9) 主要な営業所および工場

本社（静岡県沼津市大岡2068番地の3）

本店・支店

- 東京本店（東京都千代田区内幸町二丁目2番2号）
- 関西支店（大阪市）
- 中部支店（名古屋市）
- 九州支店（福岡市）
- 東北支店（仙台市）

工場

- 本社工場（静岡県沼津市）
- 相模工場（神奈川県座間市）
- 御殿場工場（静岡県御殿場市）

営業所

- 高崎営業所（群馬県高崎市）
- 静岡営業所（静岡県掛川市）
- 福山営業所（広島県福山市）

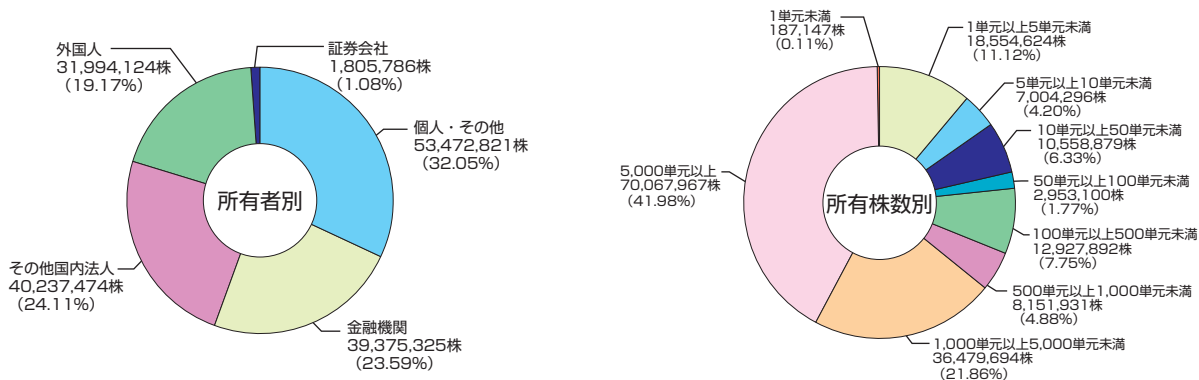
株式の状況

- ①発行可能株式総数 360,000,000株
- ②発行済株式の総数 166,885,530株（自己株式14,849,400株を含む）
- ③株主数 14,733名（前期末比363名増）
- ④大株主（上位10名）

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
株 式 会 社 東 芝	33,545千株	22.1%
資産管理サービス信託銀行株式会社（年金信託口）	5,575	3.7
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	5,498	3.6
ザ バンク オブ ニューヨーク-ジャスティック トリーティー アカウト	5,457	3.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口9）	5,143	3.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	4,550	3.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	3,866	2.5
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ	3,645	2.4
ロンドン エス エル オムニバス アカウト	3,000	2.0
ニ ッ ポ ン ベ ス ト	3,000	2.0
株 式 会 社 静 岡 銀 行	2,980	2.0

(注) 1. 当社は、自己株式を14,849,400株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

⑤株式の分布状況



ホームページのご紹介



東芝機械ではホームページによる情報開示を積極的に行なっております。財務情報や最新ニュースを始めとするIRサイトも掲載しており、製品情報も含めて随時更新を行なっております。

<http://www.toshiba-machine.co.jp>

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 基準日 定時株主総会については3月31日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定める日
- 期末配当基準日 毎年3月31日
- 中間配当基準日 毎年9月30日
- 公告掲載新聞 日本経済新聞
- 株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
- 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行なっております。
- ・住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
 - ・未払配当金の支払について
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

